

# 古文書を読む会学習記録

作成日 平成27年 9月25日

開催日	平成27年 9月24日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢公会堂3号室	出席人数	15名
講 師	真田 雅行氏	作成者	鈴木 浩士
テーマ	第二学習 ジョン万次郎帰朝記事⑨		
概要	<p>『土州人漂流記』を読む。</p> <p>本書の出版された背景は前回の「第二学習 ジョン万次郎帰朝記事⑧」(山根美智子氏執筆)に詳しく説明されているので、そちらを参照されたい。</p> <p>今回は漂流後のアメリカ滞在中、あるいは鯨船に乗って世界各地に行き見聞きした事柄を多岐に渡って記述している。これらを少し紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○鳥獣大体日本に同じ、虎・象あり、獅子はなし。</li><li>○大木多し、日本などには決してこれなき大材あり。</li><li>○切支丹の類は彼の国にても忌むよし。</li><li>○「ハフ国」、「アメリカ」とも味噌、醤油の類なし。塩にて味を付ける。</li><li>○民百姓たりとも学問次第にて挙用。</li><li>○学問宜しき人は官人に非ずとも上品の衣服を許用ゆ。</li></ul> <p>また、万次郎が帰国するまでの経緯も箇条書きの項目の中にて述べられている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○アメリカ国船で琉球国へ上陸。その後薩摩に送られる。</li><li>○薩摩から長崎に護送され取り調べを受ける。その間揚屋(牢屋)にも入れられた。</li><li>○長崎では世界図を取り上げられたりしたが、無事故郷の土佐に帰着した。</li></ul> <p>本書は堀政醇が写したものをさらに小泉氏計(もとかず)が写したもの。最後に大槻氏(詳細不明)の万次郎評を紹介している。</p> <p>曰く、「土州漂流人万次郎は天才で、アメリカ滞留中に殊の外彼の国のものに愛され、学校にも入れてもらい、天文測量、算術、砲術などまで皆伝を受けて帰国した。殊に十ヶ年もアメリカ人と交わるとは尋常の舟人と見てはいけない」</p>		
次回予定	平成27年10月8日 10:00～12:00	於:金沢公会堂	第一学習 永嶋家文書⑩